

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200568		
法人名	(株)アートジャパンナガヤ設計		
事業所名	グループホームうららびより関		
所在地	岐阜県関市倉知1726		
自己評価作成日	令和7年11月10日	評価結果市町村受理日	令和8年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Ijvsvocd=2170200568-00&ServiceCd=320&Ivpe=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して21年を迎える事が出来ました。理念の「いつまでも、どこでも、その人らしく最後まで、笑顔ある暮らし」を職員一丸となり、常に専門職であるべき姿を目指しています。2020年に増床して3ユニットになり機械浴を設置しました。外出・地域との交流を主とし『外風、日の光を浴びて骨を丈夫に、免疫力アップ』を合言葉に外気浴や散歩に出ています。中学生の職場体験、特別支援学校のインターンシップ、大学生の実習・交流等の受け入れを積極的に行っています。令和5年12月から隔月で認知症カフェを開催し、地域の中の施設として役割を果たしながら、その人らしい暮らしが出来るよう努めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は3ユニットを運営しており、利用者はユニット間を自由に行き来できる。近隣在住であった利用者が多く、入居後も馴染みの関係を継続し生活している。隣りの美容院では髪染め希望にも対応してもらい、地域交流の一端にもなっている。職員が趣向を凝らし、季節ごとの楽しい行事を企画している。夏祭りでは、利用者が浴衣を着たり、ハロウィンではドレス姿、七夕歌謡ショーなど、様々なイベントを実施している。管理者は、働きやすい職場環境作りに努め、職員は専門職としての技能を磨き、技能実習生に手本を示すなど、ホーム一丸となって質の高いサービス提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念と共に具体的な目標の「転倒防止ローガン」「薬のミスゼロ宣言」を目につきやすい場所に掲示している。地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を検討したが、開設時の理念を継承し、常にサービスに対する意識を持つように努めている。	地域住民にも、事業所の活動が理解されており、地域に役に立てる活動と利用者支援に取り組んでいる。事業所独自の目標として「薬のミスゼロ」「転倒防止」を掲げている。「うららびより」にも運営理念を記述してあり、家族に周知しながら職員の意識強化につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の美容院、近隣スーパー、飲食店を利用している。隔月で『認知症カフェ』を開催し気軽に足を運んでいただける施設を目指している。中学生の職場体験、大学生の実習等を受け入れている。	食材購入を含めて、地域の店を利用しながら、住民と交流している。隣の美容院で利用者の整髪や毛染めを依頼、近隣の人と会話をする機会にもなっている。認知症カフェの開催や、中学生の介護体験、大学生の実習を行う等、社会貢献と次世代育成の役割を担っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には行政、包括、家族、民生委員、近隣が参加し隔月の奇数月に平日・土日祝の交互に行っている。ユニットごとに利用者参加の『がやがや会議』を開催し、多数の家族の参加があり多くの意見を頂いている。	運営推進会議は隔月に開催し、行政、地域包括支援センター、民生委員、家族や隣の美容店の参加もある。活動状況や今後の計画など伝え、意見交換を行っている。利用者や家族の参加が多い「がやがや会議」の内容も議事録に掲載し、家族に送付している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	休日に開催する運営推進会議にも、行政担当者の参加を得ており、意見や助言を頂いている。災害時には双方で協力し合う確認をしている。人員配置等、行政に確認をしながら行っている。	運営推進会議を休日開催する場合もあり、行政担当者の参加を得ている。地域高齢者の現状、介護保険制度の動向などについて意見交換を行っている。日常的に行政と連携を密にし、協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回身体拘束適正化委員会では、「身体拘束に関するチェック表」で事例の有無を確認し、主にスピーチロックの検討、改善を行い、運営推進会議で報告をしている。また年2回研修を実施し拘束をしないケアを実践している。	身体拘束適正化委員会と虐待防止委員会を定期的に開催し、議事内容を全職員に回覧している。拘束事案が1件発生した際には、委員会を緊急開催し、状況確認及び速やかに解除を行っている。10分以内の事案であったが、いかなる場合にも不適切なケアを行ってはならない旨、注意喚起を行なっている。	身体拘束適正化委員会を適切に実施している。日頃から、ホーム全体で利用者のケア状況を確認し、緊急時には話し合いながら速やかに改善している。今後も、身体拘束をしないケアの実践継続に期待したい。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止検討委員会・研修を実施し、いかなる場面でも虐待を行わない事を実践している。	虐待防止検討委員会を定期的に開催し、マスコミ報道の実例などを参考に話し合っている。気になる不適切ケアや食事の提供に関する事例では、時間、量、利用者の好まない食事などについて話し合っている。	

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度、日常生活自立支援事業を活用されている方はいない。制度を理解、活用できるよう努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、入居者や家族に対して『契約書』『重要事項説明書』を声に出し読み上げ、十分な説明を行っている。法改正時には運営推進会議や個別に説明や書面にて分かりやすく説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族には写真と共に本人と職員からの近況報告の手紙を送付している。行事の様子を載せた『うらら通信』は隔月に全体に向けて発行をしている。電話や面会時に希望を話される家族が多く、内容は職員間で周知をし運営に反映をさせている。	毎月、利用者の近況報告と本人が家族宛てに書いた手紙を家族に送っている。「うらら通信」では、防災訓練、学生の職場体験、認知症カフェ等についての報告や職員紹介など、写真入りで家族に送付し信頼関係を深めている。意見や要望等は電話や面会時に聞き、運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回及び契約更新時に面談を行い、意見を聞く機会を設けている。人事考課シートで自己評価、意見を確認し、管理者と面談を行う中で具体的に職員からの意見を聞いている。毎月の職員会議は全員参加で自由に発言できる場を心掛けている。	管理者も現場に入り、職員の意見や提案を聞いている。3ユニットを巡回し職員とコミュニケーションを図っている。管理者は、職員の提案を取り入れ、改善できる事は迅速に対処している。職員一人ひとりが運営の一端を担っており、勤務年数の長い職員も多い。	ICT化で事務的作業が簡素化し、職員から余裕の時間を有効に使いたいなどの意見が出ている。職員の思いを活かし、より良い利用者サービスの提供と具体的な取り組みに期待したい。
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワークライフバランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人で就業規則が整備されており、休憩スペースを確保している。管理者が相談しやすい環境を作っている。キャリアパス制度、等級規準書、人事考課制度、人材育成を取り入れ公平な評価を行い、これを処遇に反映をしている。	職員個々のワークライフバランスに配慮しながら勤務調整を行い、仕事と家庭の両立や休暇取得等、法人の就業規則に沿って適切に整備されている。職員の休憩スペースと時間も確保されており、健康診断等の福利厚生も充実している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で無資格・未経験者には『初任者研修』を全額法人負担で受講できる。今年度は内部研修を充実させ、隔月で講師をお招きし職員全員で受講をし、職員間で互いに学び合いながらスキルアップに取り組んでいる。	キャリアパスや人事考課制度に基づき、職員の実績を評価しモチベーションを高めている。初任者研修受講費は法人で全額負担するなど支援している。今年度、介護福祉士が4人誕生している。また、外部講師を招いて研修を行い、全職員が受講し、レベルアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の月1回ケアマネ会議への参加。市が主催する介護職等各種研修への参加。県グループホーム協議会の加入、地区連絡会を通じて交流に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からの言葉に耳を傾け、一人ひとりの思いに対応できるよう心掛けている。生活の中で役割ややりがいを見いだせるよう努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメント情報を職員間で共有し、個別支援の中で反映をしている。日々の会話に耳を傾け、新たに知り得た情報は気づきノートで共有をしている。馴染みなこと、得意なこと、家族の希望も伺い生活の中で取り入れるようにしている。	入居前のアセスメント情報と入居後の利用者の様子を照らし合わせながら、利用者に寄り添い、安心して話せる雰囲気作りに努めている。本人の思いや要望を把握し、職員間で共有している。気づきノートに残し、思いを叶えられるよう支援に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時、又は6か月に1回、サービス担当者会議を行い、本人・家族の意向を伺う。毎月、全職員によるカンファレンスにてケアの検討を行い、介護計画の立案に努めている。	介護計画担当者会議は、家族も参加できる日程を調整して開催している。関係者で利用者の状態を話し合い、支援内容を具体的に検討しながら現状に即した介護計画を作成している。計画は家族に確認している。見直しが必要な場合は適切に行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	R7年から日々の『介護記録』はタブレット入力をしてホーム全体で、ユニットには『気づきノート』で情報共有を図っている。個別記録は介護計画の見直しにも活かしている。	介護記録はタブレット端末にて入力し、ユニット間は「気づきノート」で情報を共有している。個々の利用者の状態は全職員が把握し、情報を共有しながら介護計画に沿った支援を実践している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に変わり受診同行や送迎、日用品等の購入代行等、支援を行っている。事業所契約で週1回、訪問看護を取り入れ健康管理を行っている。福祉用具レンタルや購入等、必要に応じ取り入れている。	利用者や家族の要望に応え、日用品の購入代行、病院への受診同行や送迎、行政の手続き代行など柔軟に対応している。福祉用具のレンタルや購入等も家族と相談しながら、支援している。	

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験、大学生の実習受け入れを行っている。隣の美容院・近隣のスーパー・喫茶店・飲食店を利用している。家族や近隣の方から野菜・果物他、食材を頂き、日々の食事に活用をさせて頂いている。地域行事に参加したり、隔月で認知症カフェを開催している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の家族受診を基本としているが、都合がつかない時は事業所で対応をしている。希望により訪問診療（内科・精神科・歯科）も可能である。受診の際は、バイタル表や様子等情報提供を行い、医療機関との連携を図っている。	契約時に、かかりつけ医について説明している。従前のかかりつけ医を継続する場合は、家族同行を基本としているが、都合のつかない場合は事業所で対応している。内科、精神科、歯科の訪問診療も対応可能とし、医療機関と連携を図っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、介護サマリーを提供する。入院中は、管理者・ケアマネが窓口となり家族と連携をし対応をしている。早期退院に向け受け入れ態勢を整え、退院時にはカンファレンスを行い、元の生活ができるよう支援している。	入退院時の医療機関との対応は管理者・ケアマネジャーが行い、利用者が安心して治療を受けられよう家族とも連絡を取り合っている。経過を見ながら医療機関と相談し、事業所の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に『看取り指針』を提示し、『緊急時の蘇生及び終末期について意思確認』と共に本人・家族の意向を把握している。状況の変化に応じ早い段階で話し合いを行い、職員全員が意思統一をし最期まで安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期に向けた対応や看取り指針について説明し、本人・家族の同意を得ている。状態変化時には関係者で話し合い、家族の意向を再確認している。終末期には、家族と共に利用者に寄り添い、穏やかな最期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時搬送マニュアルに従い、職員は事故発生時には適切に対応できるよう搬送には個人ケースに利用者情報（既往歴・服薬状況等）をまとめ速やかに対応できるよう努めている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、事業所独自で様々な災害を想定し避難訓練を行っている。年2回、消防署指導のもと、防火管理責任者が主となり、通報・避難・夜間想定・消化器使用の訓練を行っている。今年度より地域の防災訓練の安否確認に参加をした。	年2回消防署の指導の下、避難訓練を実施している。また、毎月、様々な災害を想定した訓練を行い、10月には防災業者立ち合いの下で避難訓練や消火器取扱い訓練を行なっている。備蓄品の点検や避難経路の確認も行ない、運営推進会議で報告し、助言や指導を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長年の関りから馴れ合いにならない様、一人ひとりが適切な声掛けを心掛け、職員間で共有をしている。また、個人情報の管理、プライバシー保全については指針に従い、常に留意をしている。	地元在住であった利用者と職員が顔見知りの場合も多い。長い関わりであっても、利用者一人ひとりのプライバシーを守り、節度を持った対応で支援している。隣の美容院に同行する際には、利用者の個人情報やプライバシーを侵すことのないよう留意している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに耳を傾けたり、表情を読み取ることを心掛け、一人ひとりに寄り添うことで自己決定がしやすい環境づくりをしている。利用者が自分の思いを伝えられるよう傾聴の姿勢を大切にしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の体調及び気分を観察しながら、レクや散歩、外気浴等の声掛けをしている。無理な呼びかけはしないで、居室で過ごす時間も大切にしている。一緒に活動を楽しんで頂けるよう工夫をしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、法人の管理栄養士が作成し食材は近隣のスーパーで買い出しをし、ユニットごとで調理をしている。五感で食事を楽しめよう、出来立ての食事を提供している。職員も同じ食事を食べている。利用者の体調に応じたり、誕生日には好物を提供するなど臨機応変に対応をしている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材は利用者と一緒に近隣のスーパーで購入している。ユニットごとに職員が調理し、利用者の状態に合わせた形態で提供している。陶器の茶碗や皿を使い、自宅と変わらない家庭的な雰囲気ですべてを楽しみ、職員も同じものを食している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量・体重増減の把握をし必要に応じて、対応をしている。嚥下困難な方にはトロミ剤・水分摂取ゼリー、刻み食等の活用、ミキサー食の対応を行う。食事摂取量が少ない方は高カロリー食等を適宜使用している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア、義歯洗浄を行い、夜間は義歯洗浄剤にて洗浄を行う。希望者には訪問歯科による診察や義歯調整、口腔ケアを受ける事が出来るが、現在のところ利用者はいない。	毎食後に、口腔ケアと義歯洗浄を行なっている。自分でできる人は見守りで支援し、難しい人は職員が介助している。利用者には、嚥下障害や肺炎予防には毎日の口腔ケアが必要であることを説明しており、自ら食後の歯磨きをする利用者も増えている。	

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄が基本であり、夜間もポータブルトイレの設置はない。排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し職員間で共有をしている。日中の活動で生活リズムを整え、個々に応じたトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの状態を見ながら、週3日の入浴を基本としている。機械浴を設置しており、どなたでも安心して入浴が出来るようになった。拒否のある方は時間や場所を変えたり、体調に応じてシャワー浴や清拭等でも対応をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えている。午前中は活動や外気浴等なるべく体を動かすように努めている。一人ひとりの体調や希望に応じて昼寝をしたり、夜間、ゆっくりテレビを見てから入眠できるようにしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は一覧にし、一目で分かるようにしている。『薬のミスゼロ宣言』にて指差し・声出し・職員間の連携と具体的に上げ、薬の見える化や複数の職員で飲み終えるまで見届ける事を徹底し、事故防止に努めている。	「薬のミスゼロ宣言」を掲げ、服薬支援時には利用者本人と複数の職員で確認し、利用者が飲み終えるまで見届ける事を徹底している。薬変更時には、タブレットの申し送りで情報を共有し、誤薬や飲み残しのないよう努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からその人の得意なこと、今までやってきたこと等を把握し、職員の「お願いします」「ありがとう」の声掛けで利用者の出来る事が増えている。また、毎月行事も利用者全員に楽しんで頂けるよう、職員間で連携をして計画を立案している。	入居前の生活歴と家族からの情報を参考に、利用者の得意分野を活かしながら、残存機能の維持継続を支援している。縫い物が得意な人には、縫い物や雑巾作り、キッチンに入ることが好きな人には、食器洗いなど、職員がサポートしながら、個々の自信に繋がるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	『外風、日の光を浴びて骨を丈夫に、免疫力アップ』を合言葉に少しでも外気に触れる時間を設けている。プランターの花の管理や、苺の苗植えを利用者と共に行うなど工夫をしている。	短時間でも外気に触れられる機会として、近隣を散歩している。プランターの花や苺を育てる事も利用者の楽しみの一つになっている。百年公園で季節の花見をしたり、回転寿司店への夕食等を計画している。家族と一緒に喫茶店のモーニングを楽しむ人もある。	

岐阜県 グループホームうららびより関

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を管理されている方も見える。大半の方は、現金をホーム金庫にてお預かりをし、必要品は購入をしている。毎月、出納帳のコピーと領収書を家族に報告をしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族へ写真付きの手紙を書いている。利用者がメッセージを、職員が近況報告をしている。年賀状・暑中見舞いは知人等に3通作成をし返信もある。携帯電話を持ちこんで見える方も見える。電話の取次ぎは承諾を得ている方には行う。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室と共用空間は利用者と共に毎日掃除を行い、快適な環境を整えている。玄関口には季節の花をプランターで育てたり、日光浴用に椅子を置いている。リビングは自然の光が入り朝風通りが良い。壁には行事写真を掲示し季節感が感じられる。	利用者と一緒に毎日掃除を行っており、清潔な共用スペースである。雨天で外出できない日は広い廊下で歩行リハビリを行うことも出来る。イベント時には、机の配置を工夫し皆が楽しめるようにしてる。利用者の作品や行事の写真を掲示し、居心地よく過ごせる空間作りを行なっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大型テレビがあり、ソファや椅子で思い思いに過ごして見える。一人になりたい時は、居室で過ごして頂けるよう配慮をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に近い環境づくりを心掛けている。使い慣れた思い入れのある家具等を配置することで、安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。居室入り口には、職員手作りのネームプレートが掲げている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者目線で事故防止を図り、安全な環境で生活できるよう、段差のない手すりや家具の配置をしている。		